

平成31年4月から

市内中学校2校で



# 『特別支援教室プラス』が始まりました

市では、発達障害によって社会性やコミュニケーション等に困難のある生徒が、個々の状態に応じた特別な指導を受けられるようにするため、小学校に続いて中学校においても特別支援教室を導入しました。

教室の愛称は「プラス」。学校生活にプラスアルファを提供できる場として、生徒を応援するプラスの役割として一人ひとりの可能性がもっと広がるようにとの願いを込めました。

特別支援教室では、生徒の在籍校に、指導を担当する教員が巡回して指導を行います。

初年度となる平成31年度は、立川第六中学校を拠点校とし、立川第九中学校へ教員が出向いて巡回指導を行っています。今後、令和3年4月までに全中学校に「プラス」を設置していく予定です。

生徒自身が安心して校内の「プラス」を利用し、学習上や生活上の困難さを軽減していけるよう取組んでいきます。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



立川第九中学校「プラス」の教室

## ●平成31年4月に導入する巡回グループ

拠点校	巡回校
立川六中	立川九中

『特別支援教室プラス』では、生徒によりそった個別指導や小集団での指導を行います。

## ●令和2年度以降の導入計画

令和2年度	立川三中、立川四中、立川五中、立川七中、立川八中
令和3年度	立川一中、立川二中

※特別支援教室が在籍校に導入されるまでの間は、引き続き学区の通級指導学級または拠点校の特別支援教室で指導を受けます。

なお、計画は令和元年5月現在のものであり、今後、変更になる場合があります。



☎教育支援課 ☎(527)6171

立川市の歴史と文化財

39

## 寄贈された古文書



五十嵐家文書

歴史民俗資料館では、市民の方などからさまざまな資料を寄贈していただきます。資料と一口にいっても、当館の収集資料には、さまざまな形態があります。日常的に使用していた農具や生活用品、かつて家々を彩った雛人形や兜飾りなどの民俗資料、古文書などの歴史資料、市内の風景を写した写真資料、お祭りの映像や方言の音声なども、地域の大切な資料となります。今回は、平成30年度に当館へ寄贈された数多くの資料のなかから、歴史資料をひとつご紹介いたします。

右写真の古文書は、市内柴崎町在住の市民の方からご厚意により当館へ寄贈された資料です。寄贈時には、本紙が卷子に軸装され、桐箱に納められた状態で保管されていましたが、それ以前の状態がどのようなものであったのか、詳細は不明です。文書の形式でいえば、「折紙」といわれる書状の形式で、用紙を上下半分折りたたんだ状態で書き始めるため、紙を開くと文字の上下が逆さになっています。

文書の日付は「永禄三年庚申閏三月七日（永禄三年＝一五〇六年）」と記されています。当時

の立川市域は小田原北条氏の支配下にあり、上杉・長尾軍と北条軍が攻防を繰り返した小田原城の戦いが始まる少し前の、戦乱の時代でした。文書の内容は、長尾景虎（のちの上杉謙信）の関東出陣に先んじて、三田弾正忠政定が先陣をきって八王子の大幡に陣を構えたため、「八王子之城主」北条氏照が攻撃を加えたところ没落が合流、その手柄に対し「芝崎」（現在の柴崎町あたり）のところに所領を与える、というものです。文書の差出人である北条氏照の家臣・立川重良が、五十嵐市左衛門の功を労って所領の給付を当人に伝えた奉書であり、寄贈者の家に代々大切に受け継がれてきた資料です。

この史料に関しては、古くからその存在が知られており、江戸時代の文化・文政期（一八〇〇年代初頭）に編まれた『新編武蔵風土記稿』巻之一「百十九」所収の「多磨郡之三十一 柴崎村」の項にも記されています（項の名称中「磨」は原文のまま）。専門家によるこの史料への評価は、史料批判に適合する同時代の史料も少ないことから、疑問点や検討すべき点が多いとされていますが、江戸時代以前の立川市域の様子を伝える数少ない古文書のひとつということでは確かであり、また、当時の立川氏の動向と多摩の混然とした権力構造がうかがえる、たいへん貴重な資料といえます。

歴史民俗資料館では、6月11日（火）から7月7日（日）まで、この古文書資料のほか、平成30年度に寄贈された資料の一部を公開する「新収蔵品展」を開催します。資料の原物を見られるこの機会に、多くの皆さまのご来館をお待ちしています。

歴史民俗資料館（生涯学習推進センター文化財係）☎(525)0860